

令和元年度 第2回松原市子ども・子育て会議
議事録

開催日時	令和元年7月22日(月) 午後3時00分～午後6時00分
開催場所	松原市役所 803会議室
出席者 (委員)	会長 渡邊委員 副会長 中西委員 委員 一瀬委員、吉住委員、菊井委員、田崎委員、中瀬委員、 市橋委員、土田委員
欠席者	中山委員
事務局	松原市福祉部子ども未来室
議題	(1) 前回会議について(資料2) (2) 教育・保育・地域子ども・子育て支援事業の実績及び教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」について(資料3、4、5) (3) 基本目標毎の具体的な取り組みに掲げる事業の進捗状況の報告について (資料6) (4) その他
資料	<配付資料> ・資料1 松原市子ども・子育て会議委員名簿 ・資料2 第1回松原市子ども・子育て会議議事録 ・資料3 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」について ・資料4 認定こども園及び幼稚園、保育所における計画と実績 ・資料5 松原市地域子ども・子育て支援事業の計画と実績 ・資料6 松原市子ども・子育て支援事業の進捗状況 <参考資料> ・松原市子ども・子育て支援に関するニーズ等調査結果報告書 ・松原市子ども・子育て支援に関するニーズ等調査結果報告書(概要版)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	資料確認
事務局	それでは松原市子ども・子育て会議条例第5条第1項の規定により、会長が議長を務めるとされていますので、渡邊会長に以後の進行をお願いしたいと存じます。会長、よろしくお願いします。
会長	会長 あいさつ
事務局	議題（1）前回会議について （資料2）
会長	議題（2）教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の実績及び教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」について、事務局より説明願います。
事務局	議題（2）教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の実績及び教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」について （資料4）
会長	<p>ご説明いただきました内容について分かりにくかった点、もう少し詳しく説明してほしいという点はございませんか。</p> <p>無償化をどう考えるか、どう予測するか、人口減をどのように予測するか、また保育所については実態をどのように読み込むかということで今後の量をどのように考えていくのが一番妥当というか、現実的かということになるかと思います。</p> <p>概要版の9ページ、無償化された場合に利用したい施設やサービスという設問があって、そこに幼稚園プラス預かり保育が6割、認可保育園が5割という解説があります。無償化されたらニーズが増えると考えられるデータの一つとして説明されているのだらうと思います。</p> <p>数字をどう読むかということではなく、現場の実感はいかがですか。幼稚園、保育園の量の見込みと申しますか、実際のお母さん方の思い、感想等がありましたらお願いします。</p>
委員	研究会やいろいろな場所で聞くのは、同じ無償化になるのであれば保育園のほうが長時間預かってもらえるということ、乳児から幼児まで預かってもらえるということで希望者が増えるのではないかとということも耳にしました。

副会長	<p>また、消費税のこともあって、今のうちに家を買って他市に引っ越しをするということも聞いています。</p> <p>資料4の1枚目、保育所等<1～2歳>、ニーズ量が平成30年は660人で、実績が790人と100人以上差がありますが、全員受け入れられたということですかそれで最終的に過不足は11人で収まったのですか。</p> <p>先ほどの説明だと11人は入ろうと思ったら入れるけれども、入りたい園に入れないから待っているという説明だったと思いますが。</p>
事務局	<p>今、松原市のほうで今の計画の中でニーズ量を算出しているのですが、実際の保育所の定員数を超えて弾力化で入っていただいています。今回、平成30年度の779人分は提供できました。</p>
副会長	<p>これだけのキャパシティがあるということですね。</p>
事務局	<p>キャパシティはあります。実際のところ、定員内保育を目指しなさいというところはありますが、現在、松原市の中で弾力化で受け入れが進んでいる中で今後どうしていくかということについては一定の議論があるかと思いますが、今はこれだけのお子さんの受け入れはできているということになります。</p> <p>逆に0歳のニーズ量が227人という計画値が出ていますが、平成30年度は提供量が193人と計画値には達成していません。最近の傾向として190人ぐらいで推移しています。4月当初は、0歳児は140人程度が入所しています。年度が進むにしたがって増えていますので、ニーズ量をどこに設定するのが一つ大きな問題になっています。</p> <p>今回、来期の計画の中で国のほうも0歳のニーズが増えるだろうということで、一定のニーズ量を積んだかたちで計画値を出しましたが、どこの市町も0歳児の入所が伸びていない状況で見直しを掛けていくと。今回もニーズ調査で算出されたニーズ量をどのようなかたちで実際のニーズ量として見るのかということをしかりと考えなさいということで、松原市において純粋なニーズ量、補正前のニーズ量が令和2年度が229人と出ていますが、この数字を使うのか、それともこれまでの実績を考えて若干落とすのかが一つの議論になるかと思います。</p>
副会長	<p>計画と実績にかなりの差がありました。0歳児は他市においてもそれほど伸びていません。それは育休制度を使うようになったためだと解釈されますが、1歳、2歳はどこも足りません。その状態で100名以上の差があったので心配しましたが、</p>

	<p>キャパシティがもともとあるということであれば大丈夫だとは思いますが。</p> <p>それからもう一点、幼稚園プラス幼稚園の預かり保育の希望が高いです。4歳、5歳はほとんどの子どもたちが就園していますので、無償化された場合、どっと子どもを預ける数が増えるわけではないと思いますが、希望しているところは預かり保育が付くという長時間の部分を希望されていますから、幼稚園で同じく預かり保育をしている幼稚園じゃないと意味がないということですよ。</p>
事務局	はい。
副会長	増えるとしたら幼稚園プラス幼稚園の預かり保育だと思いますが、量はあるのでしょうか。
事務局	<p>現在、松原市内の私立幼稚園については預かり保育をされています。ただ夏休みなどの長期休業中はお盆休みの期間はしていませんし、幼稚園の預かり保育は5時ぐらいまでのところが多くなっています。保育所の場合は通常保育から延長保育というかたちで7時、8時まで預かってもらえるところが多いのですが、こうしたことを踏まえて保護者の方はどのように動かれるのかなということが一つ。</p> <p>今回のニーズ調査でも幼稚園プラス預かりという要望があるということは、保護者の方は幼稚園の幼児教育を受けさせたいというアドバンテージがあるというかたちで見られている方が多いのかなと思っています。</p> <p>無償化という中で預かり保育をする幼稚園であれば2歳までは保育所に入れるけれども、3歳以降幼稚園に移ろうとされる方が一定数増えてくるかということがこの計画の一つのポイントになるかなと思っています。</p> <p>今、幼稚園の提供量には余裕がありますので、3歳以降に幼稚園に行くという幼稚園のニーズをある一定見るということになると保育園のニーズ量を若干減少傾向で見るとかたちにもなりますし、逆に幼稚園はそこまで増えないだろう、若干の減少傾向でいくということになると保育所の3歳以上は横ばいになるかなと思います。</p> <p>幼稚園のニーズはある程度高いから幼稚園のほうが横ばいになるのか、いや、幼稚園は若干下がってきて保育園が横ばいになるのか、もしくは子どもの数が減っていくにしたがって両方とも減っていくのではないかという方向性が出るのであれば、こちらではないかというご意見を出していただけたら、その数字を入れていきたいと思っています。</p> <p>来期の計画の中では、実は市は令和元年から2年にかけて3歳から5歳の保育所の入所者数がピークになるのではないかなと思っています。ここからは入所するお子</p>

委員	<p>さんの数が減少に移るのではないかと見ているところはございます。</p> <p>ただ、今回無償化になるということもありますし、どんどん保育の需要が増えてい る中で、もうしばらくは保育所のニーズ、入所率は伸びていくのではないかと いう予測も立ちますので、この2年、3年がポイントになってきそうな雰囲気ではあ ります。</p> <p>無償化が始まるのはこの10月ですので、来年、再来年の保護者の方の動きがま だ見えて来ない状況でもあり、悩みどころにはなっています。これを委員の皆さん に方向性を決めてもらうのはなかなか酷な話ではありますが、市のほうにお任せす るよというのであれば、次回に一定の案をお示しすることも可能です。</p> <p>今、事務局から説明があつて、入所率は上がっているけれども子どもが減少して いくのでニーズ量が減っていくというお話でしたが、今、示されている令和6年度 までの入所率の推移のオールを試算されていますか。令和6年度の入所率はどのぐ らいになるとお考えですか。</p>
会長	<p>例えば、ニーズ量の予測としては660人と読んでいたのに790人も来たと。そ れは読みがおかしいのではないかとということですね。数字に基づいて読んでみたけ れども、実態は違っていたということですから、数字に基づいて全部お任せするの であればそれでもいいですが、実際の生活なり現場におられる先生方の実感とし て、こんなふうに伸びていくのではないかと。社会情勢を読むというのはなかなか 難しいけれども、少なくとも松原市の現状の保育園、幼稚園や認定こども園の実感 として率直なところをお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>まだまだ同じようにいくのではないかとか、働いておられる方がどんどん増えて いきそうだとか、長時間を望まれるとか、教育を中心にといった感触で結構ですの で、お話しただけならと思います。減っていくのではないか、増えていくのでは ないか、現状のままがいいのではないかとか、数字に基づいたらいいのではないか という、ここでの総意として、それでちゃんと計算してねというふうに次回までの 宿題を出そうと思っていますので、その辺りのご意見をちょうだいできればと思い ます。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>1号と2号が混在していますが、1号の方が2号に移るという話も聞いていま す。</p>
副会長	<p>それはお母さんが就労を考えてということですよ。</p>

委員	そうです。
副会長	やっぱり人手不足ですし、みんな働きだしていますから。
委員	<p>働き方が多様になってきて、長時間の預かりを希望される方が非常に多くおられます。スーパーは営業時間がとても長いので、スーパーで働かれている方などは長く預けることを希望されます。</p> <p>この間、子どもを預けたいと言われる方々が情報を得るために保育園に来られたのですが、もうすぐ生まれるんではないかとお母さんは、4月時点で3カ月になるということで、保育園に入れるのかということから、土曜日は預かってもらえるのか、延長保育は何時までしているか、7時頃まで預かってもらえるかと一生懸命聞いておられました。子どもにとっては厳しい状況ではありますが、必死で聞いておられて、なかなか大変な状況だと思いました。</p> <p>保護者のイメージの中で幼稚園は教育施設だと思っておられることもあると思いますが、保育園の中でも教育的な取り組みがされていますので、保育園に入園されてから幼稚園に転園される方はまれです。</p> <p>1歳、2歳が目標値に比べて多いというのは、少子化で子どもが減っていくことも見越して、各園が弾力化に協力して頑張った結果かなと思います。やっぱり0歳で育休を取って、1歳から入園するというお子さんは手が掛かります。それぞれの家庭の子育てのやり方を子どもは学んでいますから、特に一人で食事が食べられなかったり、集団に過敏だったりするお子さんも増えています。1歳児6人に対して職員が1人なのですが、1歳児は0歳児とは違う手の掛かり方もありますし、自我がすごく出てくる頃です。余裕をもって保育士さんを用意した結果、受け入れられるようにはなっていますが、各園かなり1歳児は厳しい状況にだと思えます。</p>
会長	もう少し具体化するとして、0歳、1歳、2歳そして3～5歳と分けて考えると、0歳は育休を取られるので家庭におられる率が高いので提供量ぐらいの数でどうだろうかという意見が出ていますが、その辺はいかがでしょうか。やっぱりニーズ量の数字ぐらいを横ばいで考えておいたほうがいいということでしょうか。
副会長	大きな一つの課題は、今、説明していただいたように松原市の子ども数がどんどん減っているということです。このまま減るのに任せるのかと。吉住委員がちらっとおっしゃいましたが、他市へどんどん流出していくのを市としてオクケーかという話です。5年後はどうなっていますかという質問もありましたが、例えば、きちり定員を確保するのであれば、追加整備をするといった提案も必要になってく

事務局	<p>と思います。単に数字合わせではなく、予算を伴う話になりますから、できることできないことはありますが、やっぱり今聞いている感じでは減るに任せているようなので、本当にそれでいいのですかという話です。</p> <p>もう一つは、具体的なこととして今、意見が出ていましたように、やっぱり労働力の不足は解消の方向には向かいませんので、女性が働くようになると長時間の労働であるとか、いろいろな大変なニーズに対応していかなければならなくなります。それをどこで受け入れるか。受け入れられなかったら、他市に流出するということですから。</p> <p>今回の無償化は幼稚園の預かり保育も全部無償化になりますよね。ですから例えば、先ほど幼稚園の預かり保育が5時までという話でしたが、保育園に準ずるようなかたちで6時まで預かった場合は、かなりニーズを解消できると思います。そういう対策ができるのかどうか。幼稚園は教育だけど、保育園はそうではないということではなくて、慣れたところに通いたい、近くの園に通いたいということがもちろんあると思いますから、そういうことが可能なかどうか。建物を一つ建てるということではないので、検討の余地はあると思います。伸びてくるとしたら3歳以上で1号から2号への移動というところだと思います。</p> <p>1歳、2歳は、どこの自治体も予想以上に受入数が多くなっていて苦慮されているところ。今は計画とニーズ量は違うけれども、受け入れられているという説明でしたから、路頭に迷う人はいないかもしれませんが、このままでいくにしてもどこの人数にするのかと。市としては人口が減るのはいかながなものかなと思うのですが。</p> <p>保育所の無償化は月に3.7万円までで、それ以上の保育料は負担することになります。そうすると幼稚園の預かり保育のほうが、その辺りを利用者側がどこまで調べてくるか。最初はなかなか浸透しなくても、皆さん、いろいろ調べられて人づてに話が広まってくると、新年度になったらまた変わってきます。皆さん情報収集されますから。そういった情報は行政のほうも下ろされると思います。そうすると、補助の中で子どもを預けたい。働かざるを得ない状況での就労であれば保育料は安いほうがいいわけです。その辺りを読み込んだかたちでの設定になるのではないかと思います。</p> <p>先ほど中瀬委員からのご質問になりますが、まず保育所の1歳、2歳について説明させていただきます。平成27年度の子どもの数に対する保育所を使われている方の数は、だいたい43パーセントになります。平成30年度の実績では、だいたい49.8パーセントということで、7パーセント近く上がっています。年間という1.5パーセント強になります。</p>
-----	--

会長	<p>令和6年度、6年後はこのまま同じ推移で上がると、だいたい9パーセントから10パーセント程度上がって、令和6年度で60パーセントのお子さんが保育園を利用されると。これが最高値になるのではないかと考えています。ここまでそのまま推移するのか、そこで入所率の上げ止まりがあるのか。</p> <p>同じく3歳から5歳についても、この4年間でだいたい6パーセント増となります。平成30年度は50パーセント程度になっていますので、同じく9パーセントから10パーセント上がるとなると60パーセントになります。</p> <p>3歳から5歳のお子さんの幼稚園部分、1号認定のお子さんというかたちでみると、今は44パーセントですが、4年間で5パーセントから6パーセントの減少をみえています。このまま減少していくと7パーセント、8パーセント減少して35パーセントになります。そうすると幼稚園に行かれている方の数の倍の人数が保育所を使うということになってきます。これは極端な例になるのかなとは考えています。</p> <p>1歳、2歳と3歳以上の利用率の逆転現象はあまり起こらないのではないかと考えます。同じ条件でみても6割程度になるのかなと考えていますが、幼稚園が35パーセント、36パーセントというかたちになってくると、今よりお子さんの数が300人から350人減るとなると幼稚園側としてはかなりのダメージを受けます。</p> <p>そうすると、延長保育の時間帯を延ばして受け入れ体制を整えていくという方策が出てくるかなと考えています。子どもの数が減っていくということで、この予定の数を出していますので、下げ止まりにして、それだけ分の需要を確保するとすると、かなりの整備が必要になってくると思います。</p> <p>6割というのはかなりの数かなと思いますので、ここからは今まで通りの年5パーセント伸びていくにしても、1パーセントの伸びにとどまるのではないかとこの予測はしています。これからの伸びが1パーセント程度となると、55パーセントから56パーセントという数になって、数でいうと、今のお子さんの779人という数字とだいたい同じ数、横ばいになるのかなと。保育所1歳以上も同じく横ばいになるという予測にはなりません。</p> <p>年1.5パーセントの伸びとなると、これが上昇していくと</p> <p>そのベースとして、松原市は子育てに優しいまちだということで、どんどん呼び込もうということをプランとして考えるのか、今、おっしゃったように実情に即してそういうプランを立てていったらそれでいいのではないかとということで、1パーセントか1.5パーセントか2パーセントかということも出てくるのかなと思いますが、それは政治の世界ですか。</p>
----	--

事務局	<p>市としては子育て世帯に対するサービスの充実の必要性が生じますし、松原市に大型商業施設を建設し、そこで働ける環境を作っていく。なおかつ子育て支援サービスの供給量を増やし、子どもの数を大きく減らしていかないという施策の展開を考えているところです。</p> <p>子どもの見込みの数を下げ止ませるということになると、若干上向きの数字になってきますので、そこには一定の整備をしていく必要があると思います。</p> <p>今回、この5年間の中で松原ひかり幼稚園さんが認定こども園化され、1歳、2歳の受け入れをしていただきましたが、今後、松原市のほうでも公立の認定こども園を建設をして1歳、2歳の受け入れ数を増やしていきたいと思っています。今後も私立幼稚園の認定こども園化に乗っていただけたら、そちらを進めていきたいと考えています。</p> <p>今、幼稚園、保育所を含めるとかなりの数がありますので、今ある施設を有効に活用していくのが一番いいのかなと思っています。</p>
委員	<p>資料3、年齢別就学前児童数を見ていただくと、27年度から30年度は実績値ということで、各年度の次の年を見ていただくと、27年度の0歳が834人、1歳になると848人です。松原市は転入超過していますが、0歳児はずっと減っていますので、転入超過をしてもなお子どもの人口が減っていると。自然減はしているけれども、社会増になっているのが現状です。一定、子育てサービスが提供できているということでご理解いただけているかなと思います。</p> <p>就労の機会が増えると、保育所のニーズがどれほど高まるのかなという疑問があり、質問させてもらいました。</p>
会長	<p>1号認定から2号認定へというのは、どのぐらい増えているのでしょうか。</p>
委員	<p>2号、3号が90名だったのが、今は120名です。</p>
会長	<p>1年間でということですか。</p>
委員	<p>2年ぐらい掛けてです。</p>
渡邊会長	<p>1号認定のパーセンテージが減ったとしても2号認定の割合が増えるということも読み込んでおかないといけないとは思いますが。</p>
委員	<p>副会長がおっしゃったように、今後、松原市として人口の自然減なのか転入超過</p>

事務局	<p>なのかということ園を運営するものとして非常に不安を覚えました。どんどん人口が減っていくとなると、どのように安定した運営をしていくのかを非常に不安に思いながら見えています。</p> <p>松原市内の法人の方と話をする中で、松原市だけでは心配なので、他市に新しく保育園を建てたり、民営化を取ったりして運営の調整をしていかざるを得ないということも聞いています。</p> <p>明石市が人口が減っていった時に、市独自で子育て施策をしてV字回復しているという例もありますので、この会議に入れていただく時に、そういう前向きな話がたくさんされて、子育てするなら松原市というようなプランが立てられるのがすごく楽しみだなと思っていました。</p> <p>また、乳児保育、1歳、2歳の保育は本当に幼児とは全然違います。最近も突然死などの死亡事故があって、特別な専門性が必要だなと思っています。いろいろな園がある中で、幼稚園が認定こども園化するのとはすごく勇気がいるというか、全然違う専門性の中で緊張して保育をされていると思います。幼稚園が乳児を受けれたら問題が解決するとはいえないかなと思います。</p> <p>それから、自然災害が多い中で、地震があった場合に乳児を含めた子どもをどのように避難させるかが課題です。地震の話聞く度に、松原市は大丈夫かなと思っています。園が大規模化していくのは本当に不安です。やっぱりそれぞれの地域に根ざして、無理なく近くで安心して子育てできる施設を作っていくのも必要なことだと考えています。</p> <p>先ほど、委員からご意見いただきましたように、0歳児の数がどんどん減っている状況ではあります。ここを増やすということになると、どうしても結婚した時に松原市に住んでもらうということが一つ必要なのかなとは思っています。</p> <p>施策をどう進めていくのかということがあると思いますが、今回の無償化はそういったことを目指してされていますので、推移を見守る必要性があると思っています。</p> <p>今回、どこの市町村も子育て世帯の獲得ということで、いろいろな施策を打たれていますが、結果、パイの取り合いになって、松原市がよければ近隣市町村の数が減ると。でも大阪の南河内という圏域一つを取り上げて見た場合、松原市の人口が増えても勤務先が松原市内にあるとは限らなくて藤井寺、羽曳野に勤めに行く。ただ、その子どもの数が減っているということになると、そこに広域入所を考えていくことが大事になると考えています。</p> <p>全体的な子どもの数が大阪府という単位で増えていけば、提供量を増やしていかないとまかないきれないということになりますが、そこまで全体的なところは現状</p>
-----	---

	<p>維持であったり、どうしても自然減というかたちで減っていくのであれば、そういうふうなところと連携を取りながらしていくことも大事なところだとは思っています。</p> <p>他市と連携を取りながらできることはしていくということが今後の計画の中では必要だとは思っています。</p>
委員	<p>松原市の子どもが入所できない場合は、他市で入所してもらおうというのを考えるということですか。</p>
委員	<p>いいえ、今事務局が言ったのは逆のことだと思います。子どもが減って、経営を危惧されているというのであれば、他市で整備が追いついていないところがあれば受けるという意味だと思います。</p>
会長	<p>松原市が子育てに魅力あるまちに、というコンセプトは施策として重要な課題だと思いますが、今、議論している部分はそこへ踏み込むのか、現状の中で実際にニーズ量をどのように想定するのか。数を示すというよりも、今の議論でいうと、1歳、2歳児は高止まりの状態が当然続くだろうという予測ですし、0歳児については実績値がだいたい目安になるだろうし、3歳から5歳児については一定量が、いわゆる保育園と幼稚園のバランスがあるかもしれないけれども、全体でいうと幼稚園の中でも2号、3号認定が増えてくるということも含めると、ほぼ横ばいのような感じかなというのが事務局からの説明だと思います。</p> <p>違う方向で考えたほうがいいのか、その方向で考えてもらって、もう一度数字を議論しましょうということでしょうか。どうしていきましょうか。</p>
副会長	<p>行政が想定している増減をパーセンテージを勘案して挙げていただきたいと思っています。私は具体的な数字は出せません。</p> <p>新しい箱物を建てるということではなくて、既存のものをどのように使うかだと思います。既存のものをどのように使うかにしても、幼稚園が園児の数が減るから営業努力はするだろうではなくて、やっぱりそこに行政のほうマネージャーコーディネートするといったことは必要だろうと思います。</p> <p>例えば、どこでも困っている保育士の確保なども行政がサポートするといったことはできると思います。保育時間を延ばせば新たに保育士さんの確保が必要です。90名が120名となると、1歳、2歳は減りませんから、1歳、2歳は1人対6人で、実際に1対6ではみられません。そういうところのサポートを行政にさせていただいたら、現場のほうも企業努力だけではなく、もう少し改善しやすいだろうと思</p>

会長	<p>います。</p> <p>おっしゃったように数の問題というよりは内容の問題、災害などの問題もありますから、たくさん集まったら見られないというのも現実だと思います。食事の例を出していただきましたが、1歳、2歳で一人で食べられる子がそれほどいるわけはありませんし、保育士さんの手が6本あるわけでもありませんから、その辺の人数的な面でのサポートや時間延長するための対策も含めて、子育て支援という部分での行政的な配慮をお願いしたい。そういうことも含めて検討していただきたいということでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>今のお話をひっくり返すことになるかもしれませんが、感覚として思っているのは横ばいになっていくのかなと。めちゃくちゃ減っているという感覚はまだなくて、確かに5年、10年前と比べると減っているなどは思いますが、まだまだ赤ちゃんを連れてくるお母さんやお腹が大きいお母さんもたくさんおられます。晩婚ということもあって、晩婚の方は働いておられることもあって、うちの支援センターには来られないとは思いますが、でもいろいろと話をすることで、まだまだ赤ちゃんを産んでくれる人はいるなど思っています。ですから、いきなり大きく減ることはないのではないかと思っています。</p> <p>お母さんたちは幼稚園や保育所を選ぶのにたくさん情報交換されています。どこがどうなのとか、聞きたくないと思うようなことも話しておられます。その中でやっぱり保育所に入れたいというお母さんは多いのですが、市の96時間勤務というラインがお母さんたちにとってはネックになっているようです。ガチで働かなあかんしなあと。やっぱり子どもと一緒にいたいとか、少しは子どもを見たいなど思っても中途半端に働けないということがあって、そこを変えられるような仕組みがあればと思います。第一段階は96時間、第二段階は50時間というような感じにすれば、ちょっと頑張って働いて子どもや自分ためとか、家計の足しにすることもできるのではないかと思っています。</p> <p>10月前なので保育所、幼稚園をどうしたらいいのかという相談が山のように入っています。私は自分が保育所に行かせていないので全然分かりませんし、情報誌やネットでの情報しかありませんので、通わせているママたちに聞いてみようということで、現在、通っているお母さんを紹介したりしています。</p> <p>そういう状況を見ていたら、情報はどんどん入って行って、ママたちはどんどん賢くなっているなど思います。やっぱり幼稚園がいいのか、保育所がいいのかというのは別にして、やはりいろいろなかたちの働き方を望んでいるのかなということを感じます。</p>

	<p>結婚する時に松原市に住んでもらうという話がありましたが、私もそういう方に会うと松原市においてと言いますが、「何があるの」と聞かれた時に、うーん、とってもいいよとしか言えなくて、これがいいということはなかなか言えませんが、みんな熱い思いがあって、おせっかいおばちゃんがたくさんいるよと言っています。カップルさんが松原市に来た時にお得感といいますか、何かいいものがあればいいのになと思ったりもします。</p> <p>私たちのネットワークは南大阪や大阪、北のほうにもありますが、やはり働き方について悩んでいるママたちが多いねという話になります。</p>
会長	<p>入所要件が弾力的に運用されると働きやすいという感覚が出てくるのだろうなとは思いますが。</p> <p>では次に、子育て支援事業について説明願います。</p>
事務局	<p>子育て支援事業について説明（資料3の7ページ以降、資料5）</p>
会長	<p>ただ今の説明について何か質問はございますか。</p>
副会長	<p>資料5、地域子育て支援拠点事業の平成の実績が9カ所で令和元年が8カ所になっていますが、1カ所閉鎖するということですか。</p>
事務局	<p>1期計画の目標値8カ所が令和元年度もそのまま記載されているということです。実績は9カ所です。</p>
副会長	<p>分かりました。2期計画は9カ所とするということですか</p>
事務局	<p>そうです。</p>
副会長	<p>松原市は放課後児童健全育成は小学校でされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員	<p>放課後児童クラブについて質問です。堺市と比べると松原市は学童に行く子どもがすごく少ないなと思います。卒園する子どもたちに学童保育の申し込みがきたこととお知らせすると、行かないという選択をされる方がすごくおられます。どうするのか聞いたら、家で留守番をさせておくと。夏休みであっても低学年なのに家で</p>

	<p>留守番させるということでした。学校から帰ってきて家にもいないから保育園に来ていませんかとっておばあちゃんが探しに来られるということもありました。逆に堺市はたくさんの子どもが放課後児童クラブに行っていて、自分の校区のクラブがいっぱいで学区外に行かなければいけなくなった子どももいました。</p> <p>うちにおばあちゃんがいて、放課後児童クラブに行かなくてもすむ場合もあるかとは思いますが、子どもが一人で家にいるということが危険な状況というのほども一緒だと思います。学校でやっていて、しかも公立でやっているのに行く子どもが少ない理由は何かあるのでしょうか。危ないのではないかと思いながら見ているのですが。</p>
委員	<p>夜に会議があってすごく大変だから放課後児童クラブには入れないと聞いています。保育園と同じように役員の運営があって、それが土曜の夜とか19時開始ということですごく遅くて、小さい子どもは預け先がないから預けること自体すごいハードル高いからやめておくという話を何人からも聞いています。</p>
委員	<p>私が聞いたのは、放課後児童クラブは異年齢だから、ある意味いいけれども、トラブルもあるということでした。全部が全部そうではないと思いますが、担当される先生の資質もあって辞めていく人が多くて、子どもたちを低料金で預けられる場所を作ってほしいという声が挙がっていると聞いています。</p>
会長	<p>実質、行き場所としては家で留守番しているということですね。</p>
委員	<p>どこが運営されているのでしょうか。市ですよ。</p>
副会長	<p>保護者が集まって何か運営方針を決めたりしているのですか。</p>
事務局	<p>それはありません。</p>
委員	<p>PTAのように。</p>
事務局	<p>保護者会を独自に作られて、そこで話し合うというかたちを取られています。保護者が運営に入るということはありません。保護者会の役をするのが嫌だから入らないということだと思いますが、市としては保護者会がなくてもきちんと運営しています。学校内でしていますし、夏休みもやっています。</p> <p>夏休みを超えた段階で、子どもさんが習い事に行くという状況をもって退会され</p>

	<p>る方が増えてくるということはありません。5歳で保育所に入られている7割程度のお子さんが学童保育を利用されています。それから2年生になる時に8割程度の方が進級されて、50人程度に減ります。3年生も8割程度が進級しますが、4年生に上がる時はだいたい半分のお子さんが進級され、5年生はその半分、6年生はその半分という進級率が毎年の傾向です。</p> <p>平成27年度から6年生までの受け入れをして、最初の年は5年生、6年生は少なかったのですが、その次の年からだいたい同じような人数が入っています。保育所の5歳児さんが大きく増えていけば放課後児童クラブに入る方も増えると思います。松原市は学校内で空き教室を使ってやっていますので、受け入れ体制は整っています。</p> <p>松原市は学校の規模が大きいところ、小さいところがありますので、学童も大きな学童、小さな学童になっているのも現状です。</p>
会長	<p>使いたいけれども使い勝手が悪いとか、資質の問題うんぬんも含めて何らか実情というか、なぜ少ないのかということについて一定、探る必要があるのかなと思います。</p> <p>アンケートを見ると50とか60といった数字で、実態を反映しているとはなかなか思いにくいので、実際に利用されている方の状況や辞められた方がなぜ使わないでおられるのかということも含めて考えていかれる必要があるのかなとは感じました。</p>
事務局	<p>放課後児童クラブを退会される際には理由を聞いていますので、そのデータをお示しさせていただきたいと思います。</p>
会長	<p>ニーズ量と乖離している各事業がかなりあったと思いますが、それは実績値に即してということと考えていかれるという認識でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
会長	<p>目標値と実績が万単位で変わっているところもあるかと思いますが、その辺りのご検討をお願いします。</p> <p>他にご意見ございますか。</p> <p>それでは今、ご議論をいただいたところを踏まえて実際の見込みを次回、ご提示いただいで検討するということをお願いしたいと思います。</p> <p>議題(3)基本目標毎の具体的な取り組みに掲げる事業の進捗状況の方向について</p>

	て（資料6）ご説明いただきます。
事務局	議題（3）基本目標毎の具体的な取り組みに掲げる事業の進捗状況の方向について（資料6）
会長	進捗状況の報告をしていただきました。ご質問、ご意見はありませんか。
委員	<p>いくつかこの項目の中で人力的な配置が非常に難しいということが出ています。先ほど、人材確保の問題について話が出ましたが、うちでも今度採用試験を予定しているのですが、新卒の方がまったく来られないんです。なぜだろうと。やむを得ない事情で退職する職員がいて慌てることが多いので、いつもは年末にする採用試験を今年は早くしたのですが、見学には来られても応募がありません。社会福祉施設の経営者同友会で他市の状況をいろいろ聞いたら、新卒の学生さんたちにお祝い金とか準備金という名前で10万円、20万円渡したり、月に2万円ずつ出したりする市が非常に多くなっているということが分かりました。それが学生さんたちが就職先を選ぶ時の一つの理由になっています。</p> <p>そんな一時的なことをしてどうするんだと思っていたのですが、先日聞いたところ、そういうことをしている市がすごく多くてびっくりしました。だから来てくれないんだなと実感しています。今月末に試験をしようと思っていたのですが、応募が1件で、それも新卒の方は来てくれなくて年配の方でした。採用試験をもう少し延期することも考えている状況です。</p> <p>障害者保育のところで、保育士の確保が難しいため受け入れができないと書かれています。乳児のところも3対1の人数を確保できないために定員を下げるといふ園が他市にあることも聞いています。ぜひ職員確保に松原市としても他市並のことはしていただけたらと思います。</p> <p>職員確保をなんとかしながら、市の事業を健全に進めていくことができたらいいなと思っています。</p>
副会長	<p>例えば、就職して2年勤務したら自治体が学費の半額を援助するとか、ほかにも検索すると挙がってくると思います。そういったことが実際あります。</p> <p>関東のほうは相当な人手不足で、企業経営の全国ネットで展開している企業は関西にも人材確保で乗り込んできています。そこは1年目に海外研修をしたり、魅力的な取り組みをしています。補助金を出す行政がいくつかあることは知っています。</p>

会長	<p>高校から短大へ行く段階で奨学金を出すことも考えなければならないのかなと模索しているところです。ただ、補助金をばらまいたのに辞められてもいけないので、どういうかたちにするのが問題です。人材確保のために財源を考えなければならない時代にはなっているのかなとは思いますが。</p> <p>その実体についても調査していただければと思います。</p>
副会長	<p>かなり自治体が市内にある幼稚園、保育所、認定こども園を集めた就職フェアを開催しています。</p>
委員	<p>この前やっていただいたのですが、本当に少ししか来られませんでした。</p>
副会長	<p>バスに乗せていくつかの園を回るといったことも自治体がやっていると聞いています。</p>
会長	<p>学校の就職課に協力してもらうことが必要かもしれません。補助金をばらまいても学生はなかなか動いてくれないので、実習担当の教員や就職課と連携を取ることが必要かもしれません。</p> <p>その他の項目については何かございますか。</p>
事務局	<p>(4) その他について説明</p>
会長	<p>中央からおりてきて、それを市町村レベルでどうするかということはまだ協議中です。出てきたら考えましょうということですが、またこの議論の中でいくつかお考えやご感想を聞かせていただくこともあるかと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>遅くなりましたが、以上で今回の会議を終了させていただきます。事務局に司会をお返しします。</p>
事務局	<p>いろいろなご意見をいただきましてありがとうございました。以上をもちまして令和元年度第2回松原市子ども・子育て会議を閉会します。次回の会議は9月上旬を予定しています。またご連絡しますので、よろしくお願ひします。長時間ありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>